

## 2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 1 月 10 日作成)

|                              |   |   |
|------------------------------|---|---|
| 小委員会名                        | クールルーフ推進小委員会  | 主 査 名：近藤靖史<br>就任年月：2011 年 4 月   |
| 所属本委員会<br>(所属運営委員会)          | 環境工学委員会<br>(都市環境・都市設備運営委員会)   | 委員長名：佐土原 聡<br>主 査 名：村上公哉  |
| 設 置 期 間                      | 2011 年 4 月 ～ 2013 年 3 月   |   |
| 設 置 目 的<br>各年度活動計画<br>(箇条書き) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市ヒートアイランド対策としての屋上緑化, 高反射率塗料, 保水性建材などの対策技術の適切な選択に関する議論を行う。(2011 年度)</li> <li>・シンポジウムなどにより都市ヒートアイランド対策としての屋上緑化, 高反射率塗料, 保水性建材などの対策技術の適切な選択に関する議論を行い, 建築学会としての方向性を示す。(2012 年度)</li> </ul> |   |
| 委員構成<br>(委員名(所属))            | 委員公募の有無：無   |   |
|                              | 主査：近藤靖史(東京都市大学)<br>幹事：竹林英樹(神戸大学)<br>委員：赤川宏幸(大林組), 伊藤大輔(ものづくり大学), 梅田和彦(大成建設), 酒井孝司(明治大学), 田坂太一(建材試験センター), 西岡真稔(大阪市立大学), 橋田祥子(明星大学), 三坂育正(日本工業大学), 村田泰孝(崇城大学), 森山正和(摂南大学), 吉田篤正(大阪府立大学)   |   |
| 設置 WG<br>(WG 名：目的)           | クールルーフ適正利用ガイドライン検討 WG：一般人にも判りやすく, クールルーフ化すべきかどうかを判断できるためのガイドラインを整備する。   |   |
| 2012 年度予算                    | 100,000 円   | ホームページ公開の有無：有<br>委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.aij.or.jp/kankyos22/">http://news-sv.aij.or.jp/kankyos22/</a> |

| 項 目                                       | 自己評価   |
|---|--|
| 委員会開催数                                    | 2 回 (年度内計画を含む)<br>(クールルーフ適正利用ガイドライン検討 WG は 3 回)  |
| 刊行物<br>(シンポジウム資料等は除く)                     |  |
| 講習会                                       |  |
| 催し物<br>(シンポジウム・セミナー等)<br>*能力開発支援事業委員会承認企画 | 1. クールルーフの適正な普及に向けたシンポジウム      参加者数 67 名   |
| 大会研究集会                                    |  |
| 対外的意見表明・パブリックコメント等                        | 1. クールルーフの適正な普及に向けたシンポジウムにおいて, クールルーフ適正利用ガイドライン案を公表した。   |
| 目標の達成度<br>(当初の活動計画と得られた成果との関係)            | 1. クールルーフ適正利用ガイドライン検討 WG の活動により, クールルーフ適正利用ガイドライン案を作成し, シンポジウムにおいて公表, 議論した。<br>2. ガイドライン案をベースとした出版計画について議論を行い, 次年度の企画刊行運営委員会において出版する方向で出版社との調整を開始した。 |
| 委員会活動の問題点<br>・課題                          | 1. クールルーフ適正利用ガイドライン検討 WG の活動を優先したため, 小委員会の開催は少なくなった。   |

- \* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- \* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

## 2012 年度 小委員会活動 自己評価

### (最終年度評価)

| 総合評価<br>(4段階評価)                 | (A)  | B | C | D |
|---------------------------------|--|---|---|---|
| 総合評価に関する<br>自由記述欄<br>(理由、特記事項等) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市ヒートアイランド対策としての屋上緑化、高反射率塗料、保水性建材などの対策技術の適切な選択に関する議論を行い、クールルーフ適正利用のためのガイドブック案が作成された。</li> <li>・クールルーフの適正な普及に向けたシンポジウムにおいて上記ガイドライン案を公表し、議論を行った。シンポジウムには会員外からも 31 名の参加者があり、測定方法の標準化や JIS 化、関係する業界の取り組み状況、学会による適切な情報発信の必要性、などについて活発な議論が行われた。</li> <li>・ガイドライン案をベースとした出版計画について議論を行い、次年度の企画刊行運営委員会において出版する方向で出版社との調整を開始した。</li> </ul> |   |   |   |

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。